

長門市水道事業経営戦略 説明資料

令和3年3月

長門市上下水道局

経営戦略の概要

公営企業については、保有する資産の老朽化に伴う大量更新期の到来や人口減少等に伴う料金収入の減少等により経営環境は厳しさを増しており、普段の経営健全化の取組が求められている。

このような中、公営企業が住民の日常生活に欠くことのできない重要なサービスを提供する役割を果たしており、将来にわたってもサービスの提供を安定的に継続することが可能となるように、国から中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」を策定するよう要請を受けている。

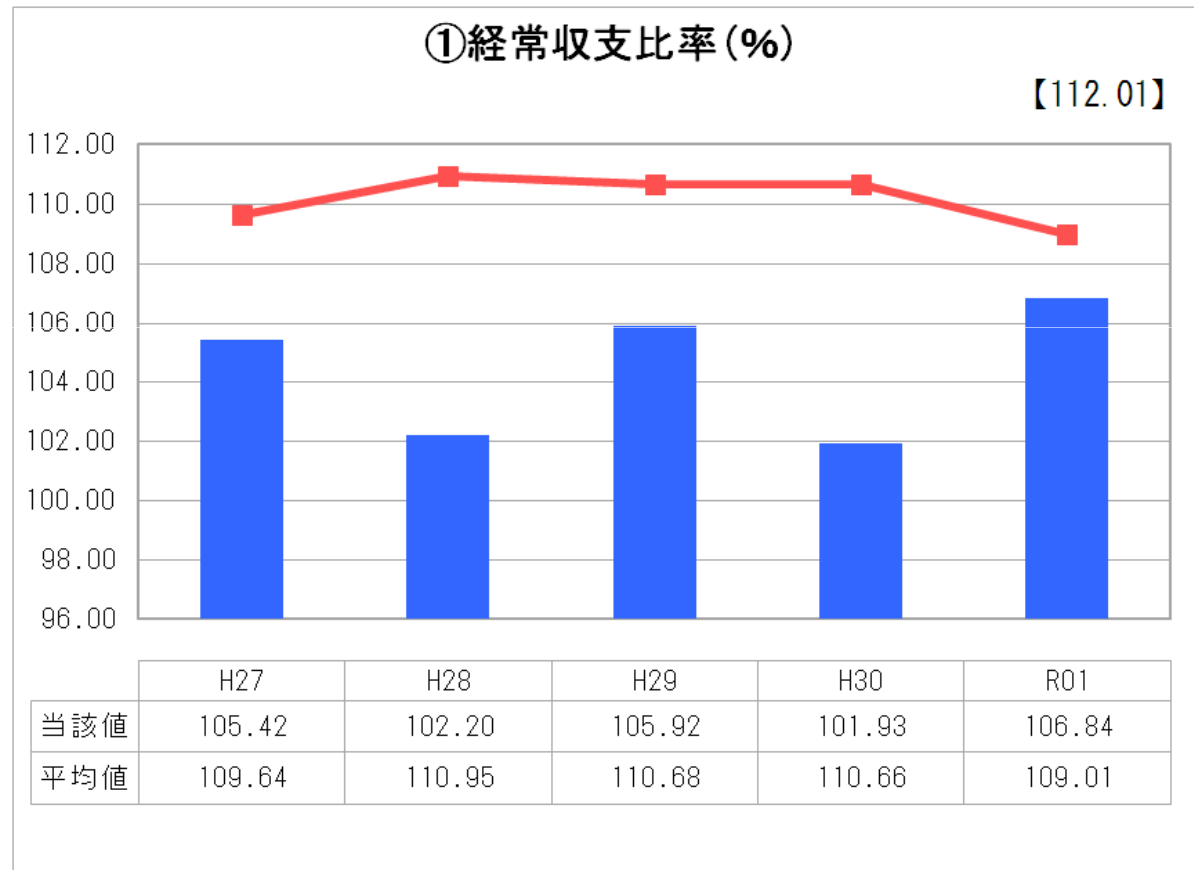
(国の改革工程表では令和2年度に「経営戦略」の策定率を100%とすることとしている。)

【長門市水道事業の経営戦略】

- 1 計画期間 令和2年度～令和11年度(10年間)
- 2 策定単位 長門市の水道事業全体(上水+簡水)
- 3 公表時期 令和3年3月

事業概要

経営比較分析表を活用した現状分析



グラフ凡例

■ 当該団体値（当該値）

— 類似団体平均値（平均値）

【】 令和元年度全国平均

※類似団体は給水人口3～5万人規模

（算出式）

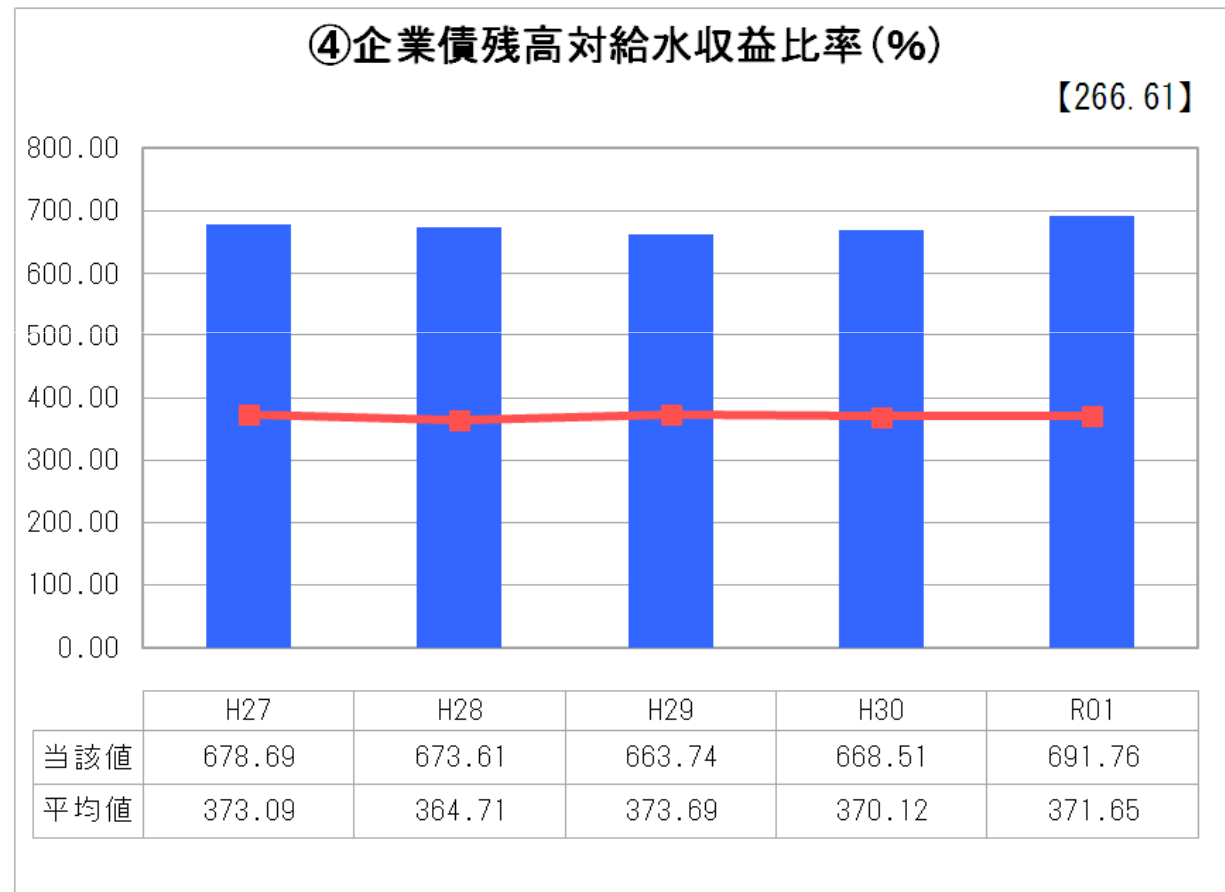
$$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$$

【比較】

利益率が低い。（100%未満の場合は赤字となる。）

事業概要

経営比較分析表を活用した現状分析



グラフ凡例

■ 当該団体値（当該値）

— 類似団体平均値（平均値）

【】 令和元年度全国平均

※類似団体は給水人口3～5万人規模

（算出式）

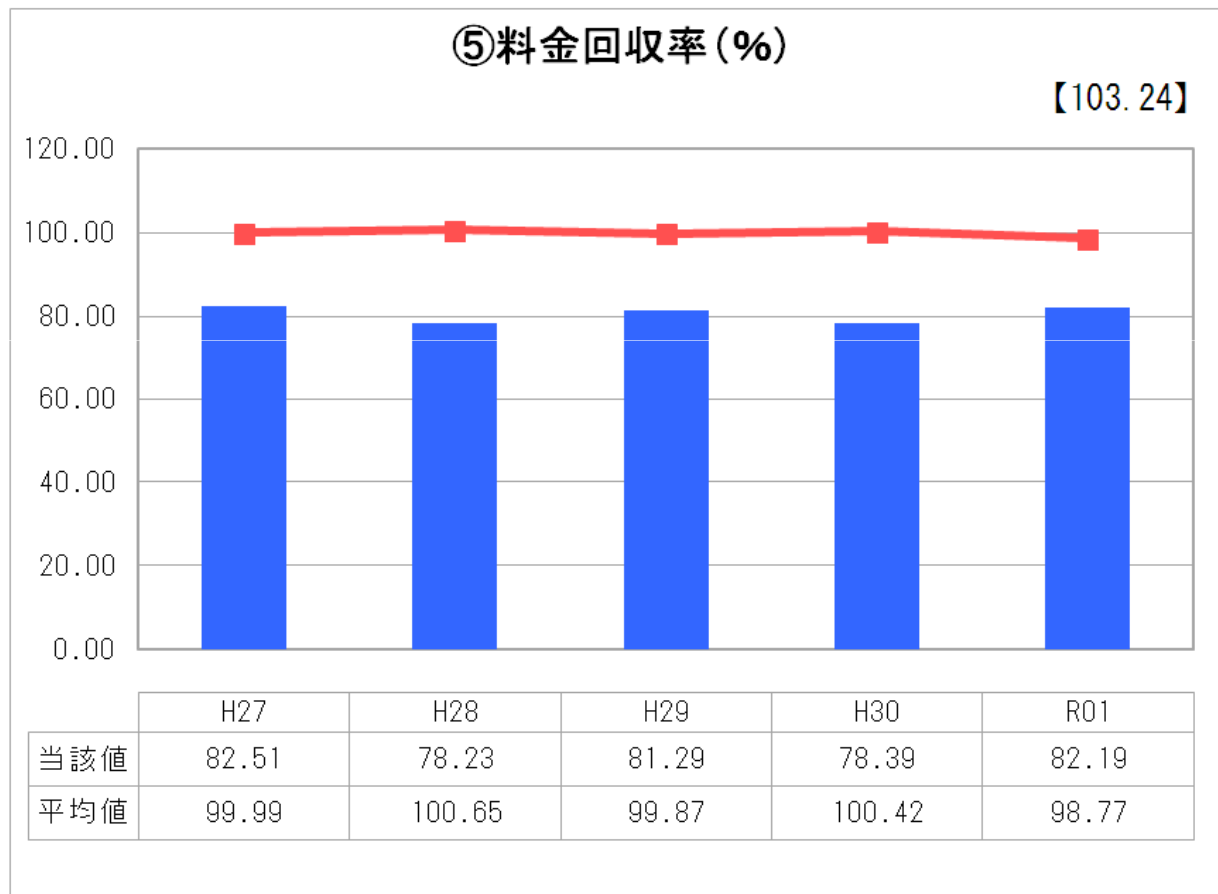
$$\frac{\text{企業債現在高合計}}{\text{給水収益}} \times 100$$

【比較】

料金収入に対する借金の残高の割合が非常に高い。（類似団体の1.9倍で全国平均との比較では2.6倍）

事業概要

経営比較分析表を活用した現状分析



グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均
- ※類似団体は給水人口3～5万人規模

（算出式）

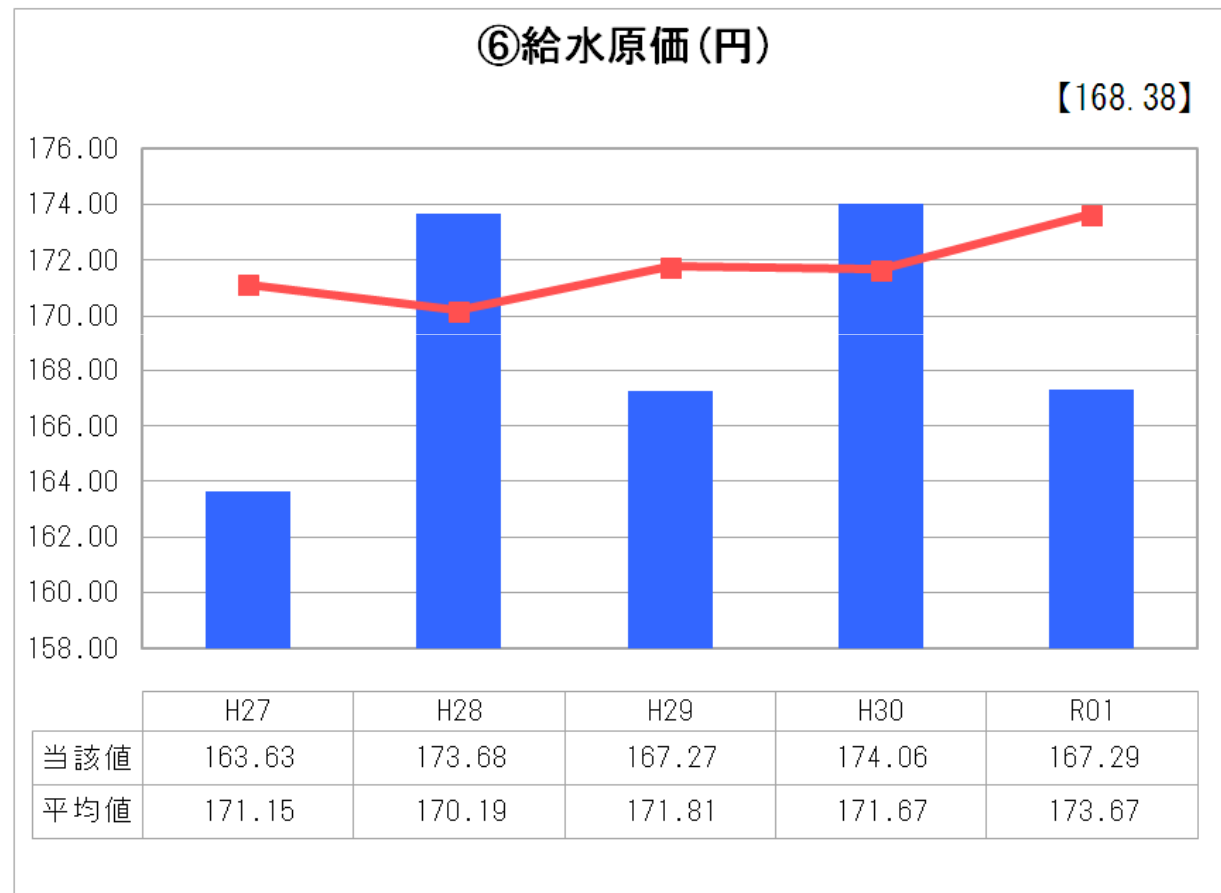
$$\frac{\text{供給単価}}{\text{給水原価}} \times 100$$

【比較】

水道料金で賄える費用の割合が低い。（一般会計からの基準外繰入金で運営に必要な収入を確保している。）

事業概要

経営比較分析表を活用した現状分析



グラフ凡例

■ 当該団体値（当該値）

— 類似団体平均値（平均値）

【】 令和元年度全国平均

※類似団体は給水人口3～5万人規模

（算出式）

費用

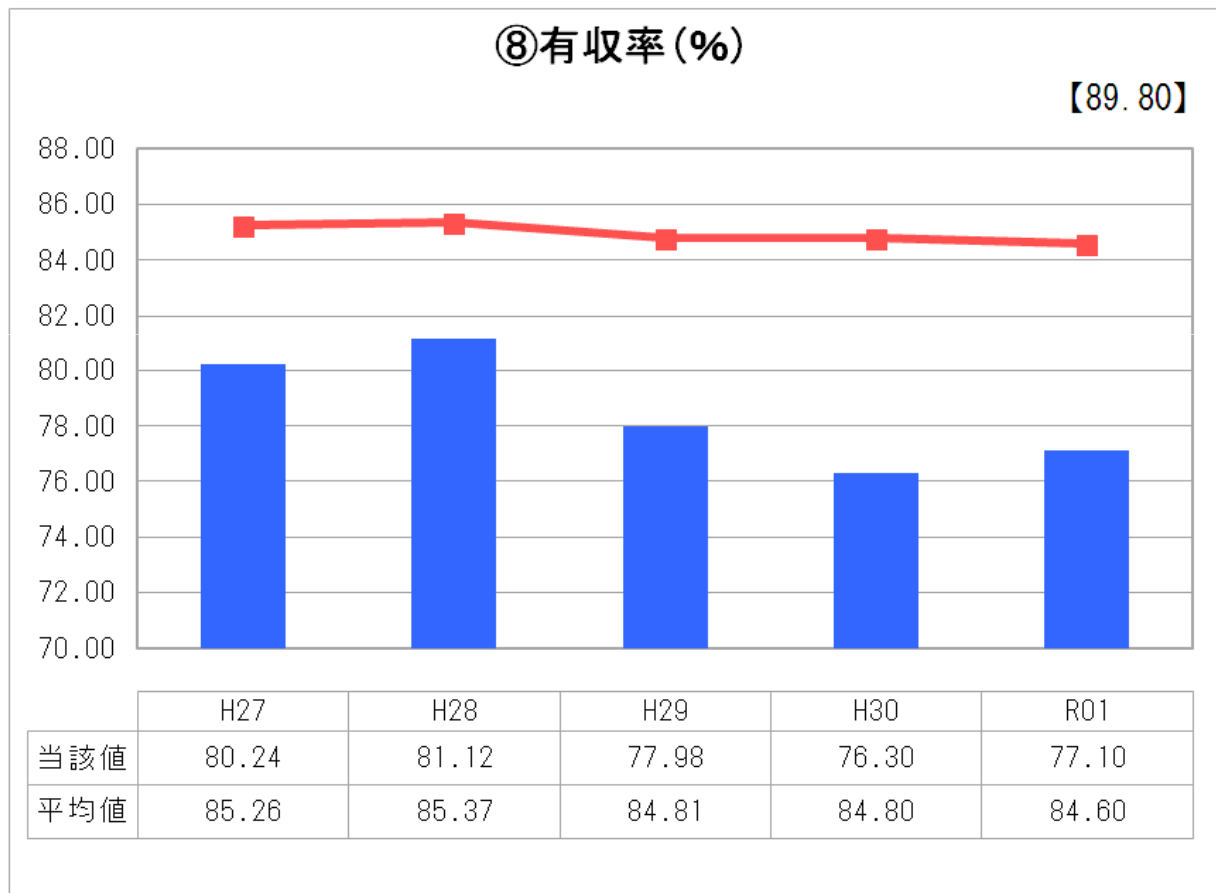
年間総有収水量

【比較】

有収水量1m³あたりの費用は平均並みである。
（R1は他団体より低いため、経費節減に努めている。）

事業概要

経営比較分析表を活用した現状分析



グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均
- ※類似団体は給水人口3～5万人規模

（算出式）

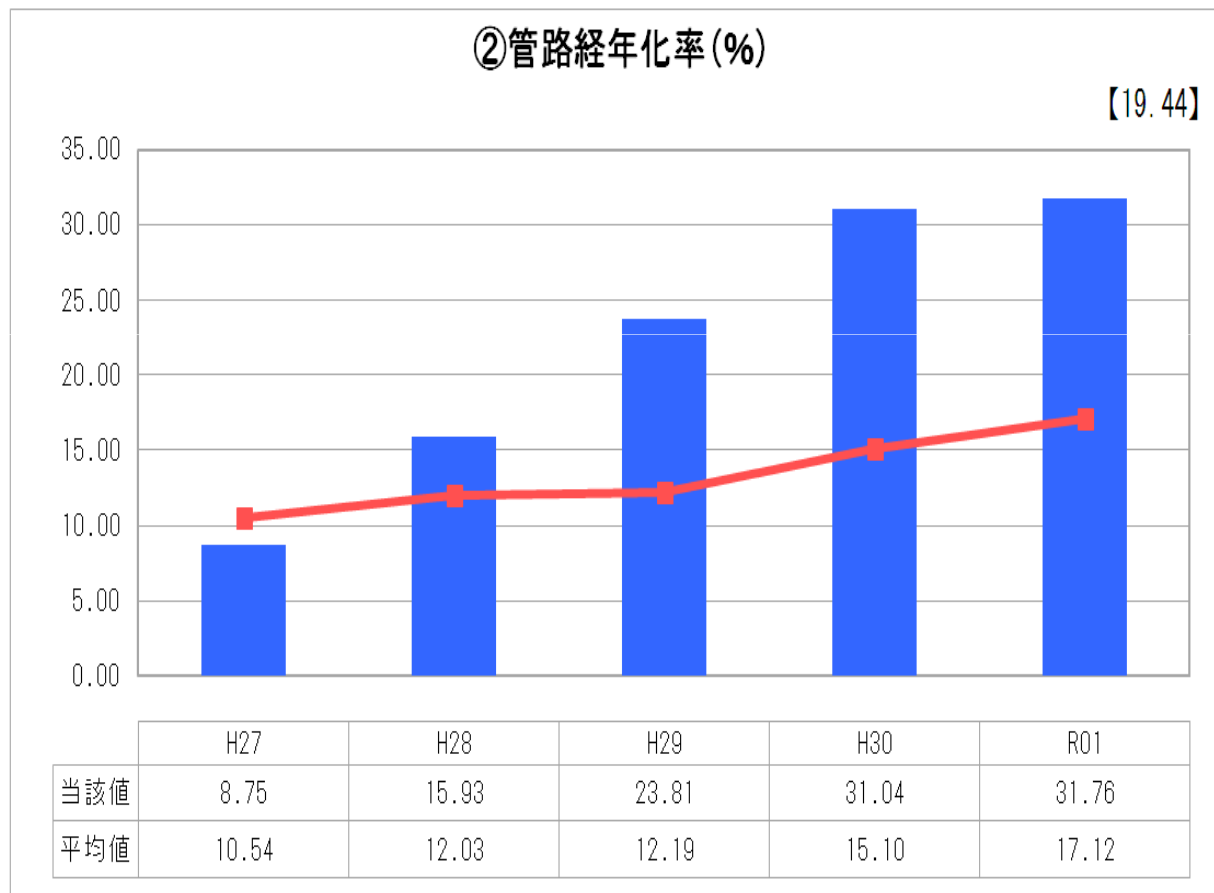
$$\frac{\text{年間総有収水量}}{\text{年間総配水量}} \times 100$$

【比較】

水道の送水量が水道料金に結びついていない。
(水道管の老朽化により漏水が多い。)

事業概要

経営比較分析表を活用した現状分析



グラフ凡例

■ 当該団体値（当該値）

— 類似団体平均値（平均値）

【】 令和元年度全国平均

※類似団体は給水人口3～5万人規模

（算出式）

$$\frac{\text{法定耐用年数経過管路延長}}{\text{管路延長}} \times 100$$

【比較】

法定耐用年数40年を超えた水道管の割合が高い。（水道管の老朽化が進んでいる。）

事業概要

経営比較分析表を活用した現状分析



グラフ凡例

■ 当該団体値（当該値）

— 類似団体平均値（平均値）

【】 令和元年度全国平均

※類似団体は給水人口3～5万人規模

（算出式）

$$\frac{\text{当該年度更新管路延長}}{\text{管路延長}} \times 100$$

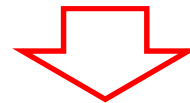
【比較】

H29を除けば、水道管の更新に力を入れている。（ただし、法定耐用年数の40年で水道管を全て更新するには2.5%の管路更新率が必要）

事業概要

【経営比較分析表から分かる長門市の現状】

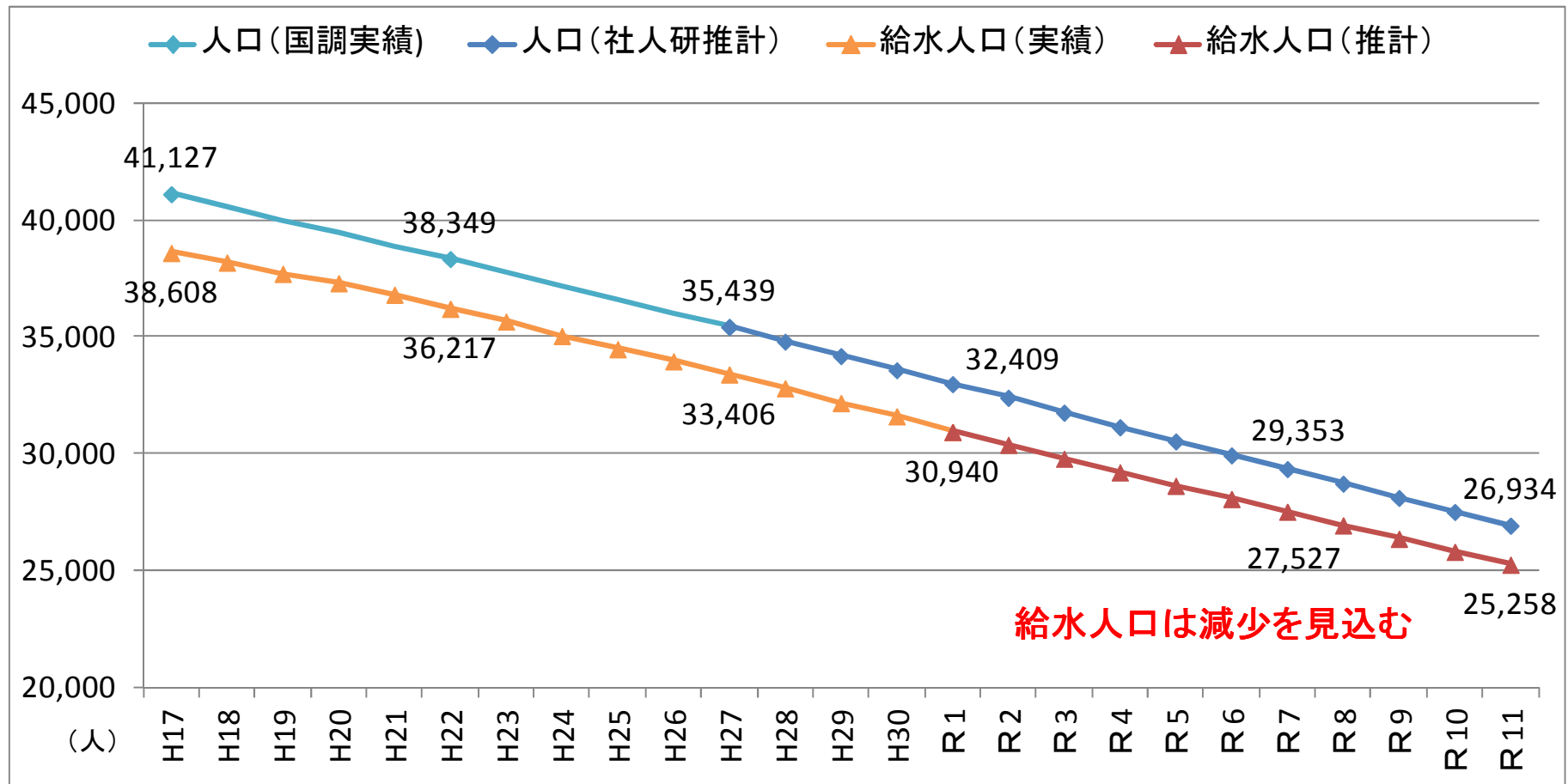
- 借金（企業債残高）が非常に多いため、借入を抑制する必要がある。
- 費用は抑えているが利益率が低いため、収入を確保する必要がある。
- 料金回収率が低いため、水道料金の増収を図る必要がある。
- 水道管が老朽化し漏水也多いため、管路の更新を進める必要がある。



更なる経営の効率化と
水道料金を中心とする収入増加に向けた取組が必要

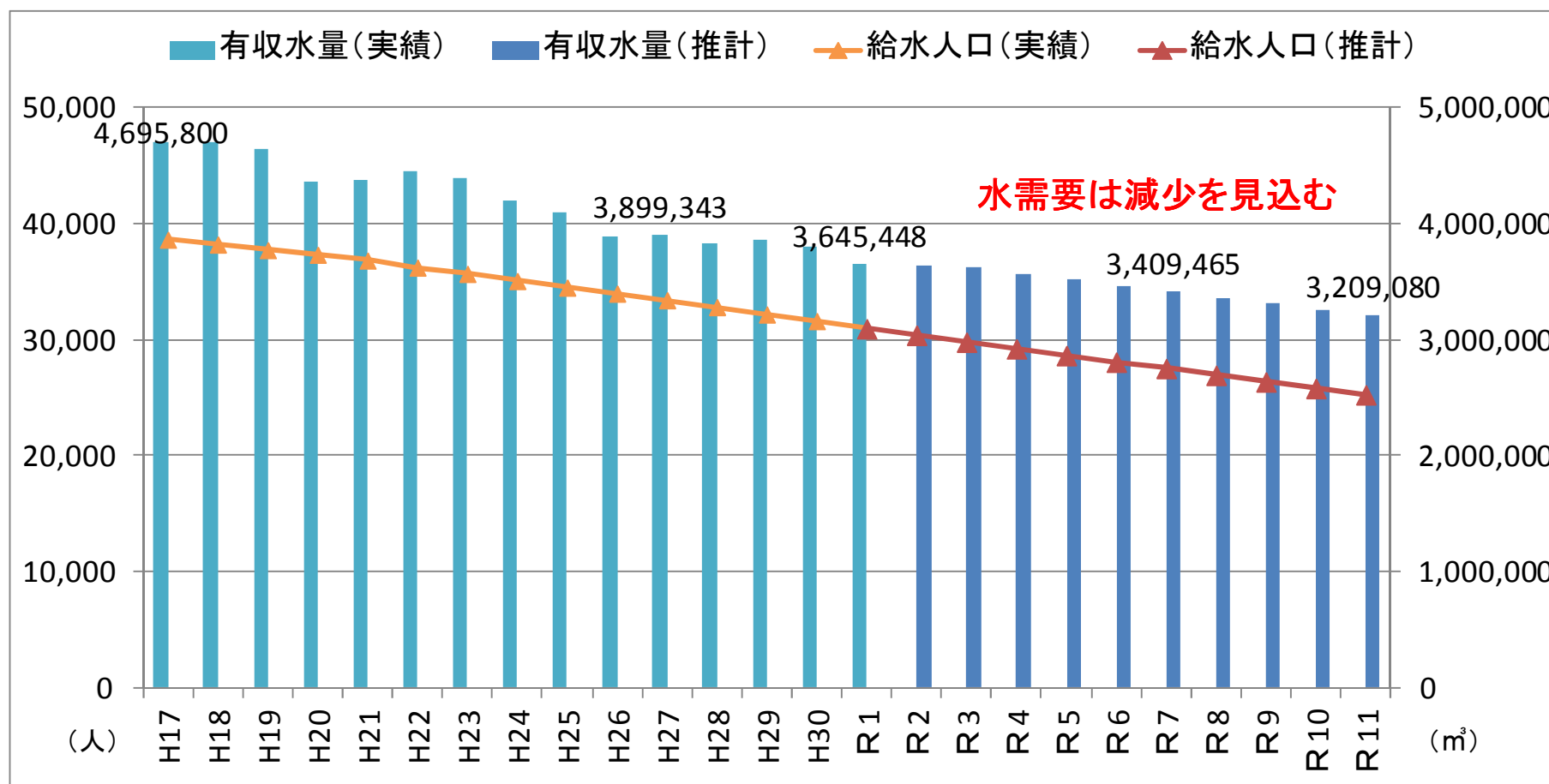
将来の事業環境

(1) 給水人口の予測



将来の事業環境

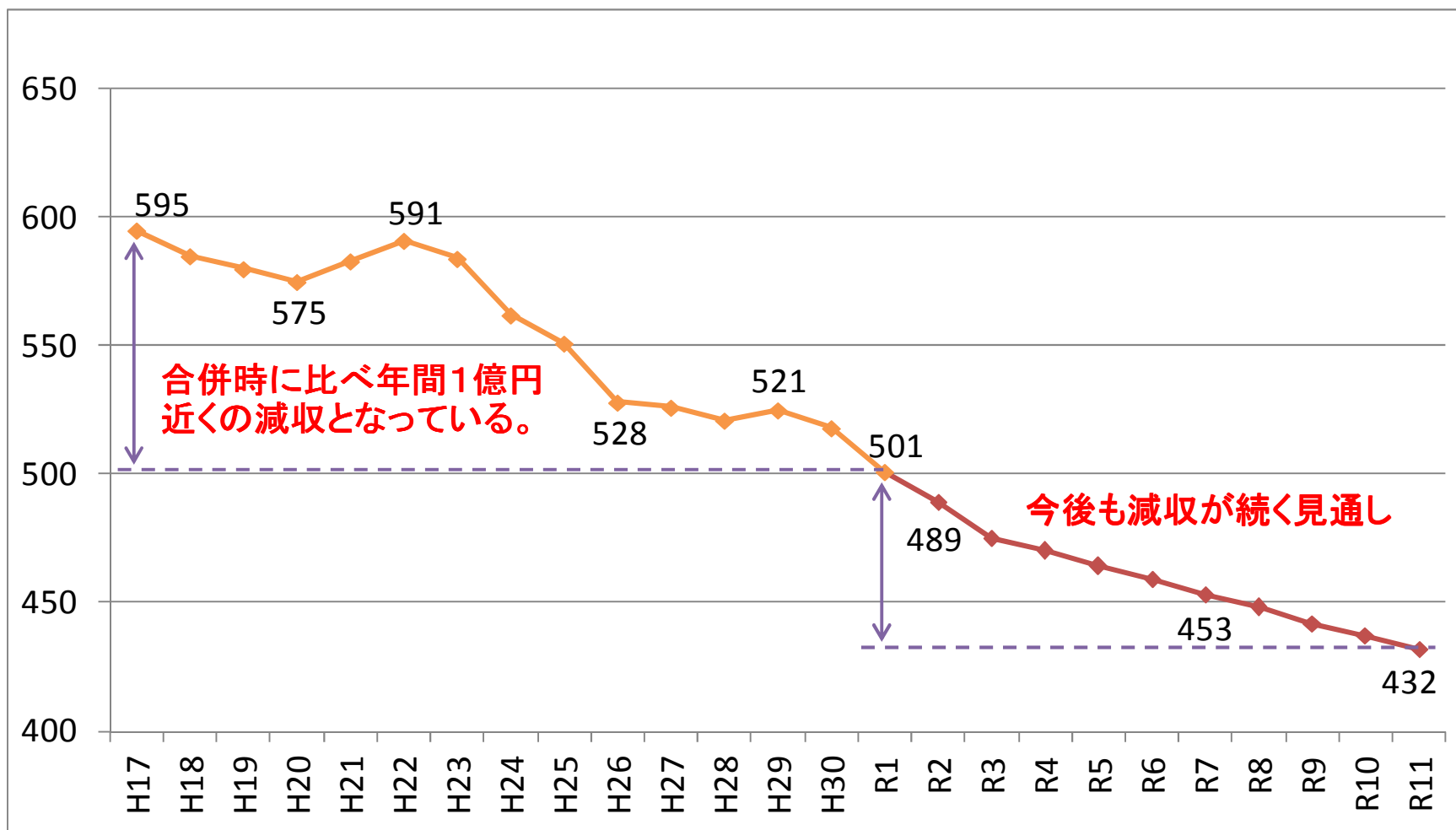
(2) 水需要の予測



将来の事業環境

(3) 料金収入の見通し(現状)

(単位:百万円)



将来の事業環境

(3) 料金収入の見通し(目標の設定)

一般会計からの基準外繰入金により収益的収支の黒字(經常収支比率100%)を確保している状況であるが、将来的には水道料金の減収が見込まれるため収入確保の取組が必要である。

また、一般会計繰入金を含まない営業収支比率は、類似団体と比較して低いことから、水道料金の増収を図る必要がある。

經常収支比率・・・經常費用(営業・営業外費用)に対する經常収益(営業・営業外収益)の割合
長門市(R1) 106.8 類似団体(R1) 109.1

営業収支比率・・・営業費用に対する営業収益の割合
長門市(R1) 88.1 類似団体(H30) 95.7

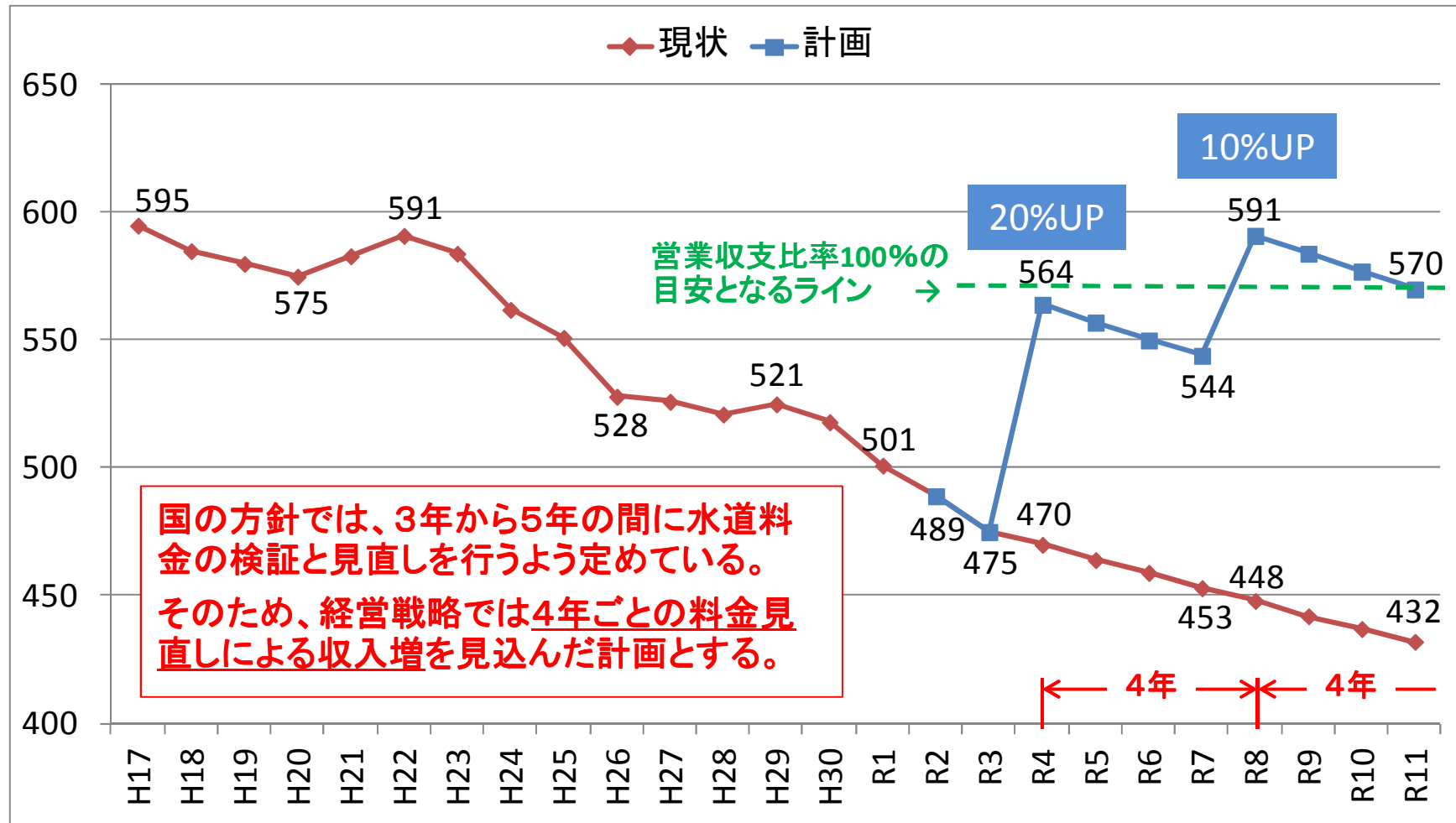


持続可能な事業運営に向けて、経営戦略における水道料金の見通しは、水道ビジョンに掲げる「営業収支比率100%」を目標に水道料金の見直しを図る計画とする。

将来の事業環境

(3) 料金収入の見通し(計画)

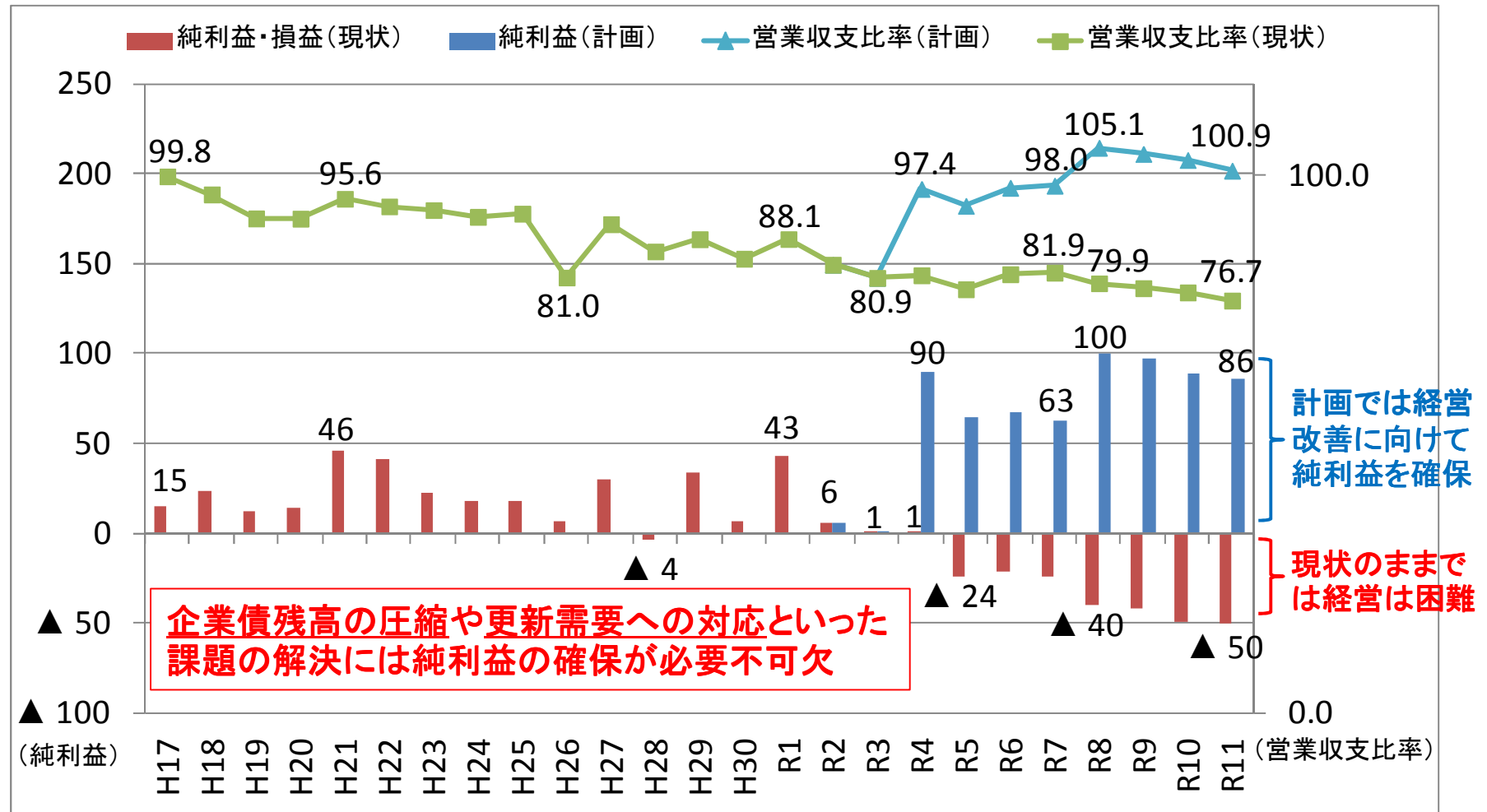
(単位:百万円)



将来の事業環境

【参考】純利益(損失)・営業収支比率の見通し

(単位: 百万円、%)



将来の事業環境

【参考】資本的支出の建設改良費で**実施済**の主な事業

- 三隅下浄水場・配水池整備事業(H17・H18)
- 水道情報監視システム構築事業(H18～H20)
- 湯本配水池整備事業(H21・H22)
- 大迫新配水池整備事業(H22・H23)
- 田上浄水場整備事業(H26～H30)

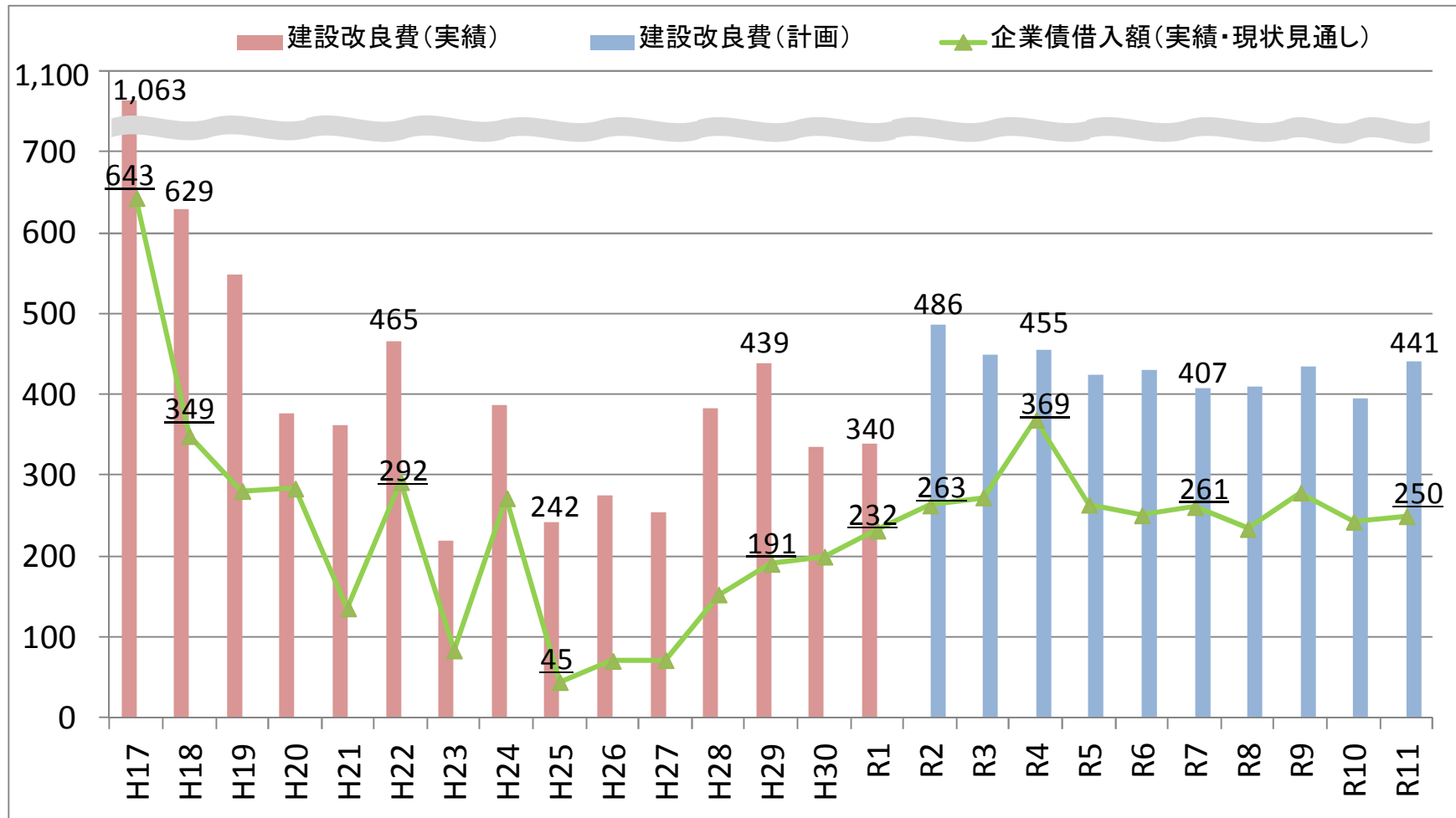
【参考】資本的支出の建設改良費で**予定**している主な事業

- 基幹管路更新事業
- 湯本浄水場更新事業(R1～R5)
- 大河内川ダム整備事業(H2～R11)
- 水道監視システム更新事業(R1～R4)
- 深川川河口堰更新事業
- 紫外線滅菌設備整備事業(下郷・三隅中)
- 真口配水池更新事業
- 三上山配水池更新事業

将来の事業環境

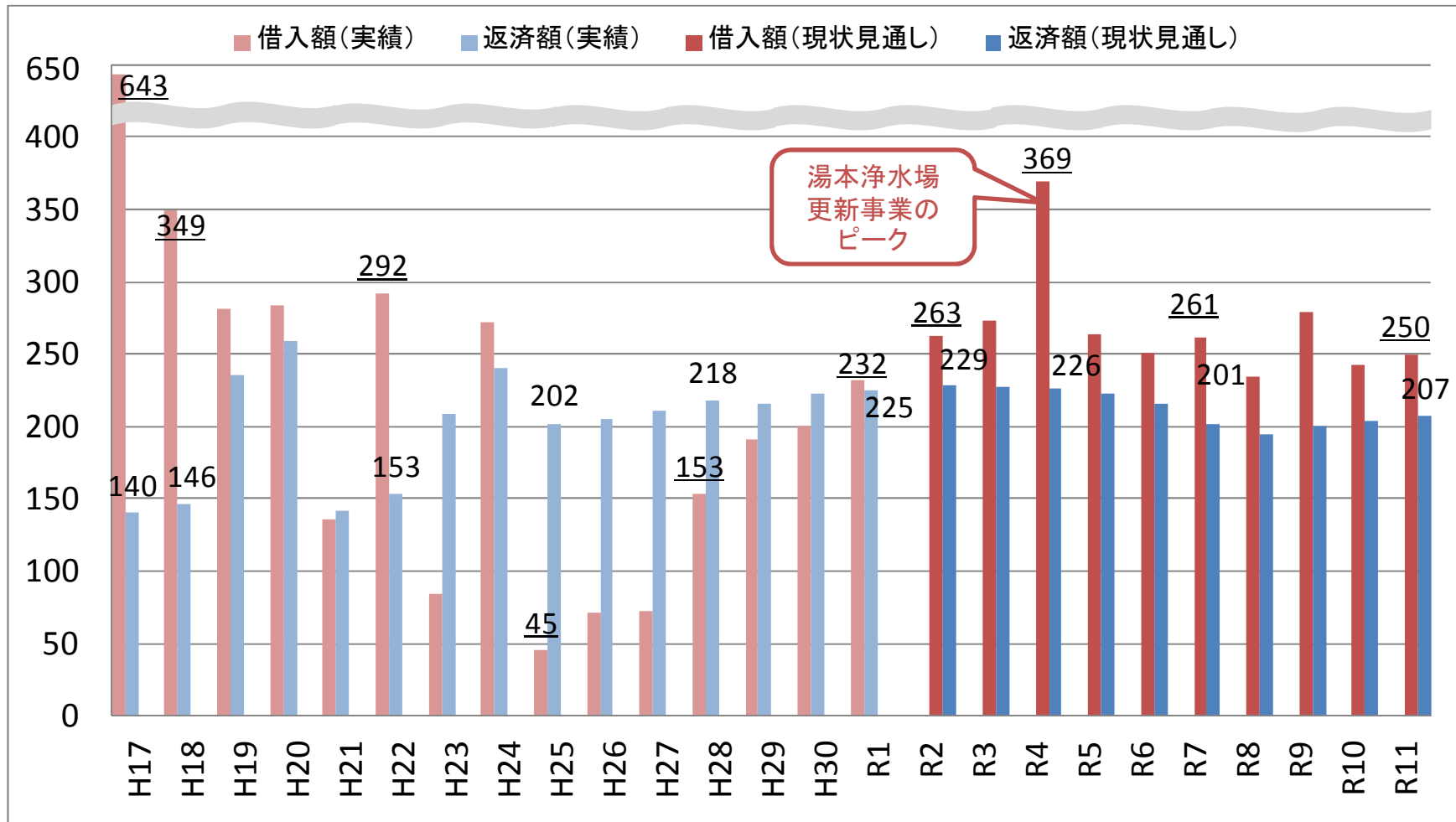
【参考】資本的支出における建設改良費の見通し(現状)

(単位:百万円)



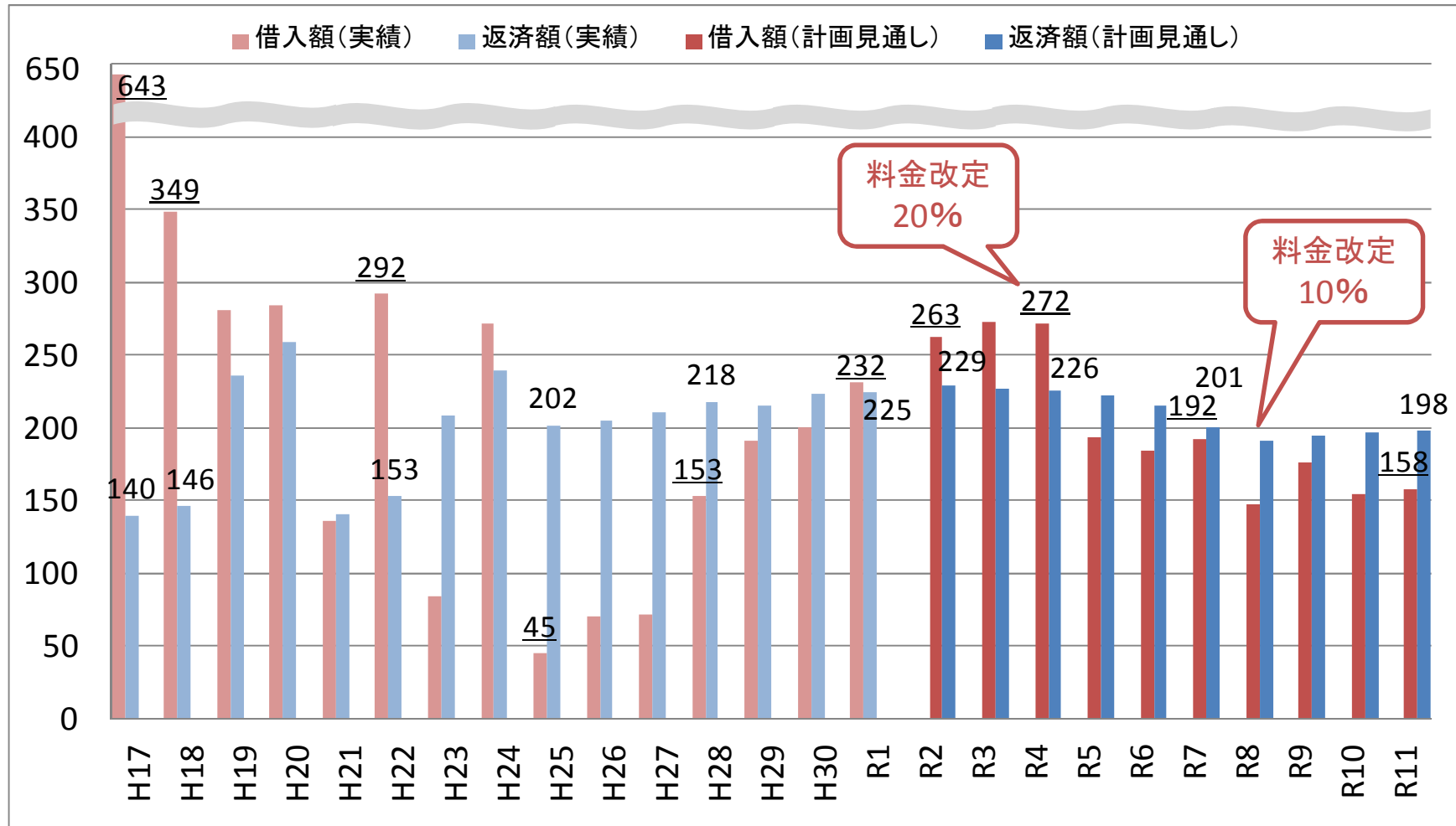
将来の事業環境

【参考】企業債借入・返済額の見通し(現状) ※料金改定を見込まない場合 (単位:百万円)



将来の事業環境

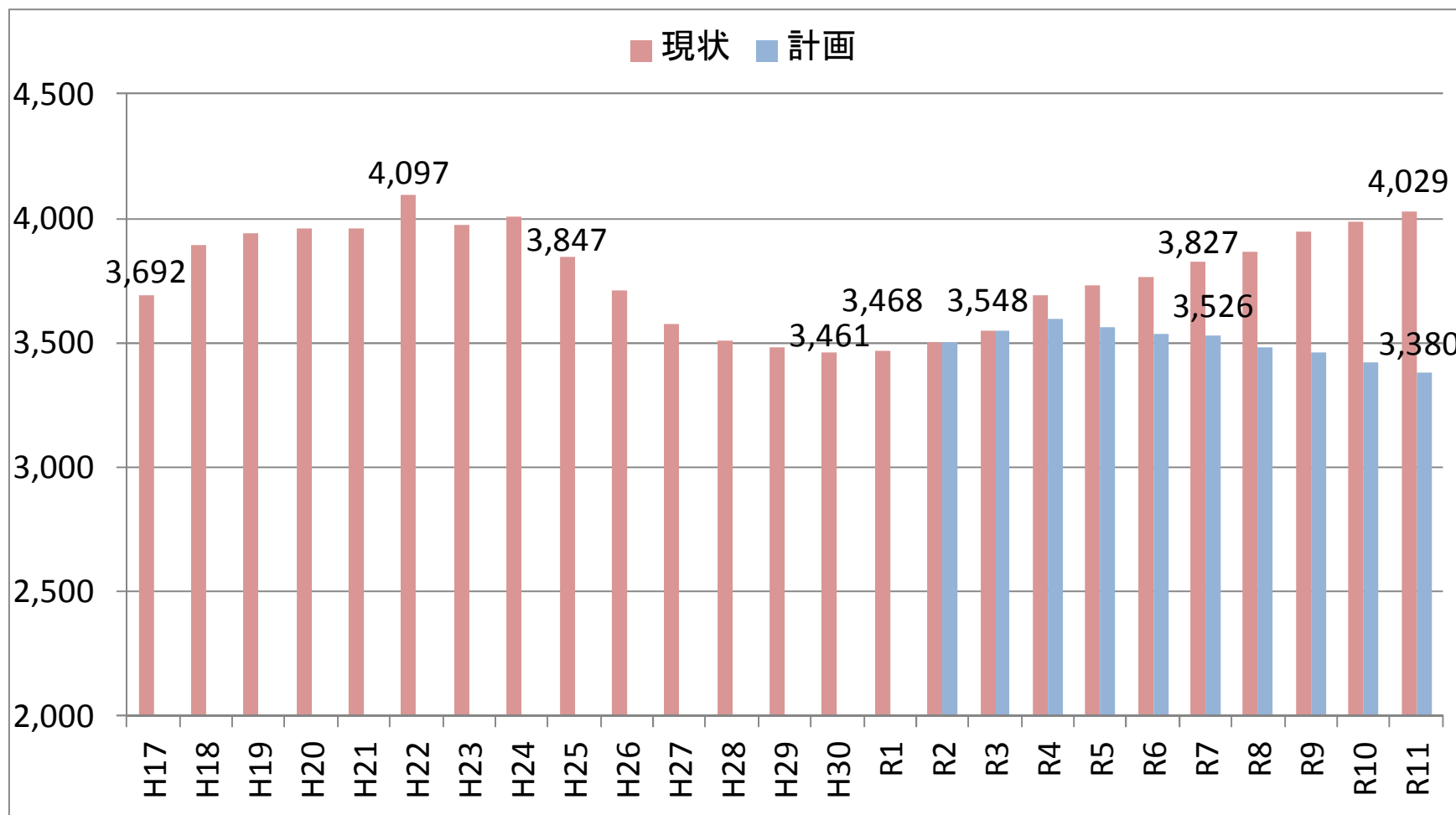
【参考】企業債借入・返済額の見通し(計画) ※料金改定を見込んだ場合 (単位:百万円)



将来の事業環境

【参考】企業債残高の見通し

(単位:百万円)



将来の事業環境

(4) 施設の見通し

- ・湯本浄水場(昭和38年竣工)、三上山配水池(昭和48年竣工)の更新
- ・老朽管の更新
- ・地区連絡管布設による施設統廃合とダウンサイジング

(5) 組織の見通し

- ・上下水道局の設置による組織力強化と業務の効率化
- ・技術の継承や研修参加などによる人材育成
- ・業務における民間活用の検討

経営の基本方針

「いつもいつまでも市民の命と健康をささえ続ける長門市の水道」

1. 安全・安心（市民の命と健康をささえる）

2. 持続（いつまでも将来へと受け継がれる）

3. 強靱（災害にもいつも命の水を供給する）

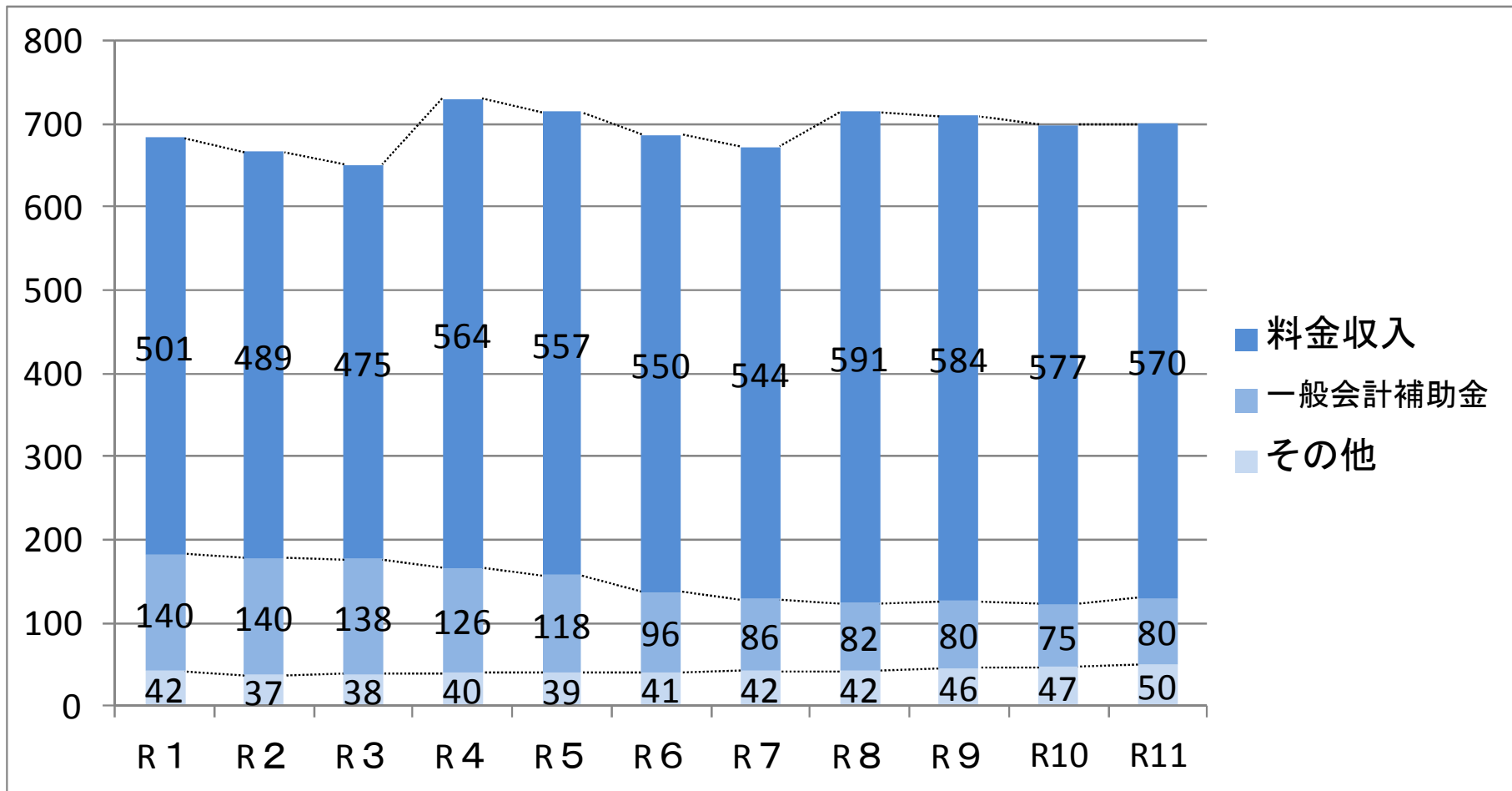
- ・給水量と収入の減少に対する安定経営の維持
- ・余裕ある水道施設のダウンサイジングと再編
- ・安定した水源の確保
- ・クリプトスポリジウム（塩素消毒に耐性のある寄生原虫）等への対策
- ・老朽化した水道施設の更新と耐震化
- ・更新需要への対応（事業化と財源手当）
- ・財政基盤の強化
- ・維持管理技術の継承
- ・将来を見据えた水道料金の再考

投資・財政計画(収支計画)

(1) 投資・財政計画(収支計画)

収益的收入

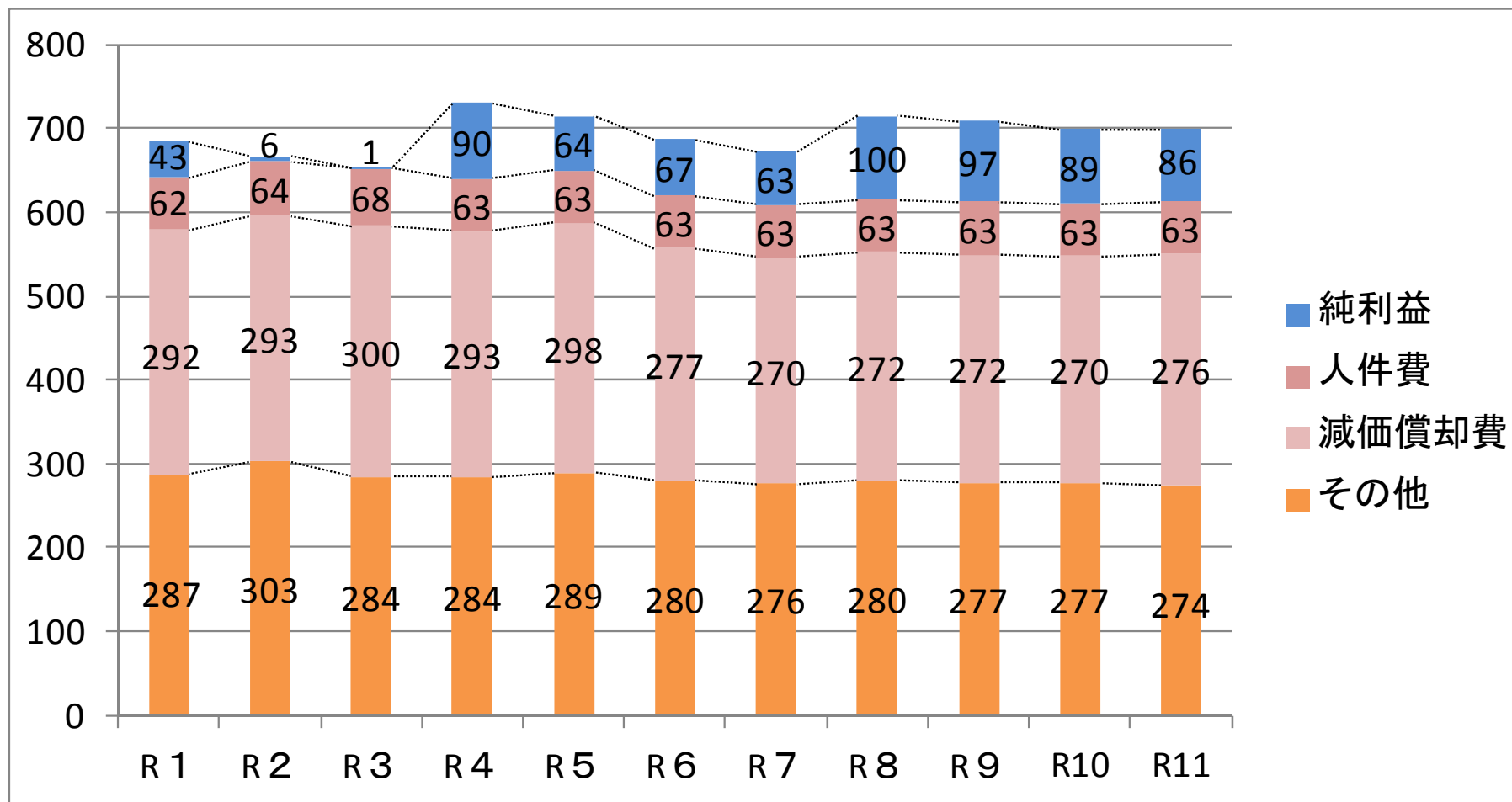
(単位:百万円)



投資・財政計画(収支計画)

収益的支出

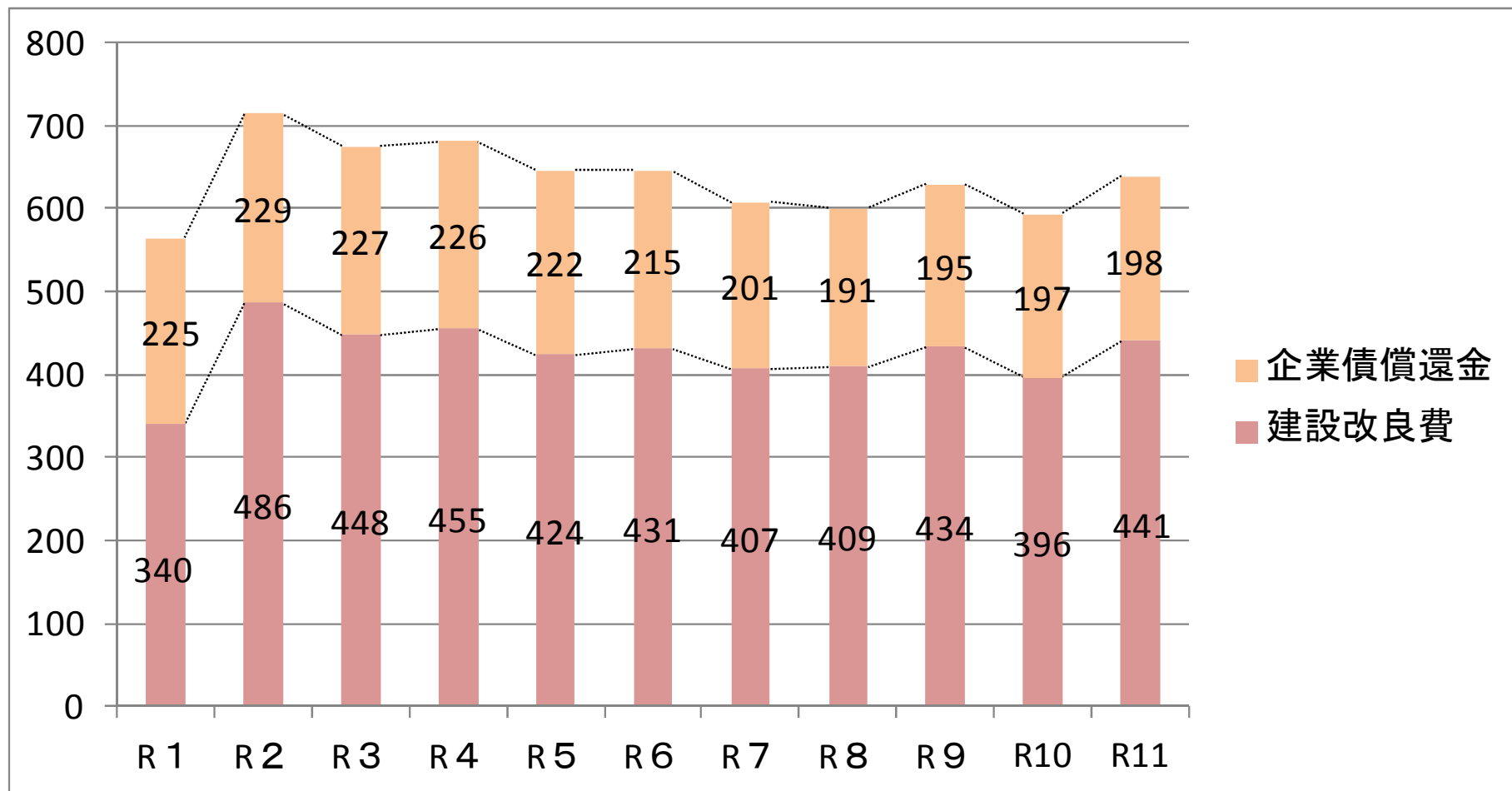
(単位:百万円)



投資・財政計画(収支計画)

資本的支出

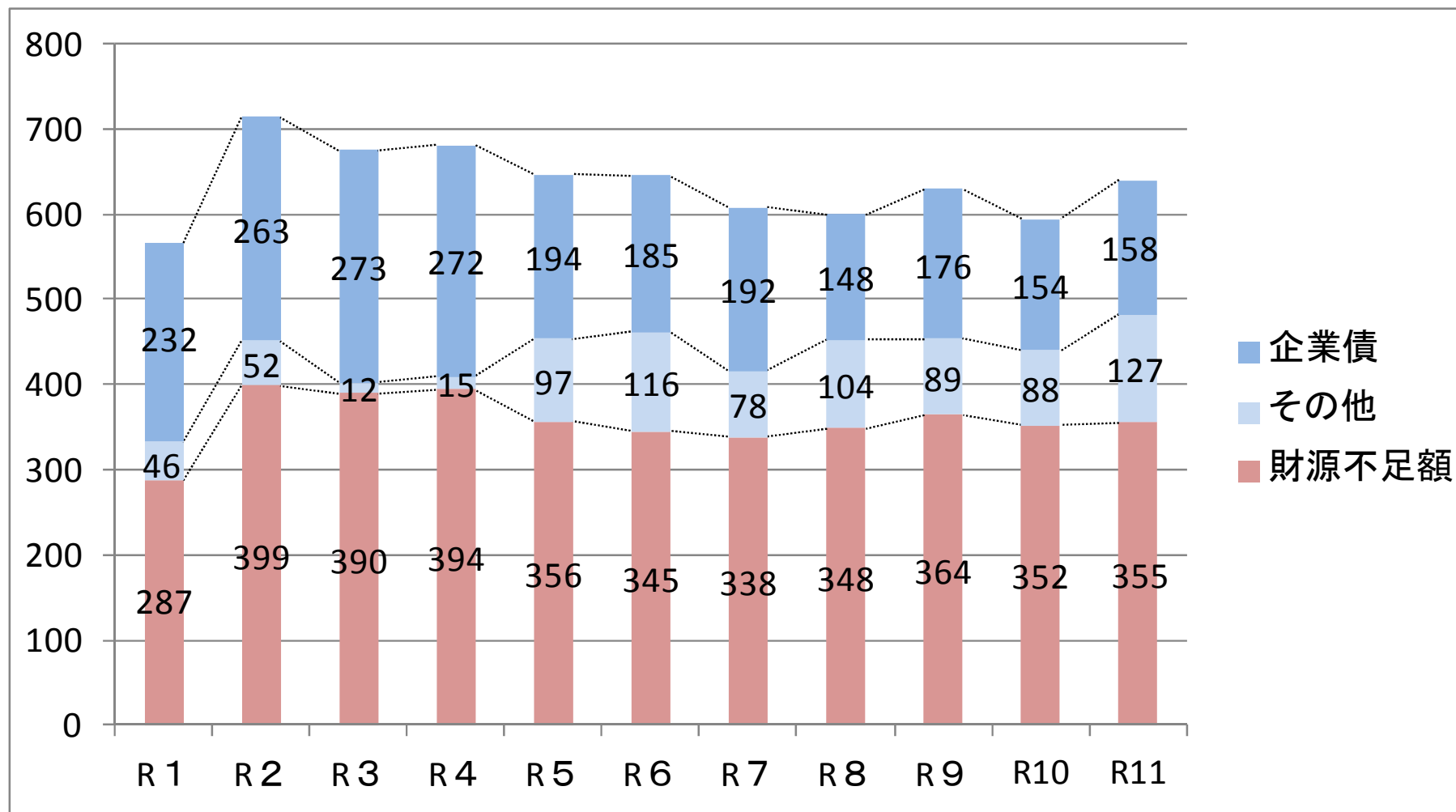
(単位: 百万円)



投資・財政計画(収支計画)

資本的收入

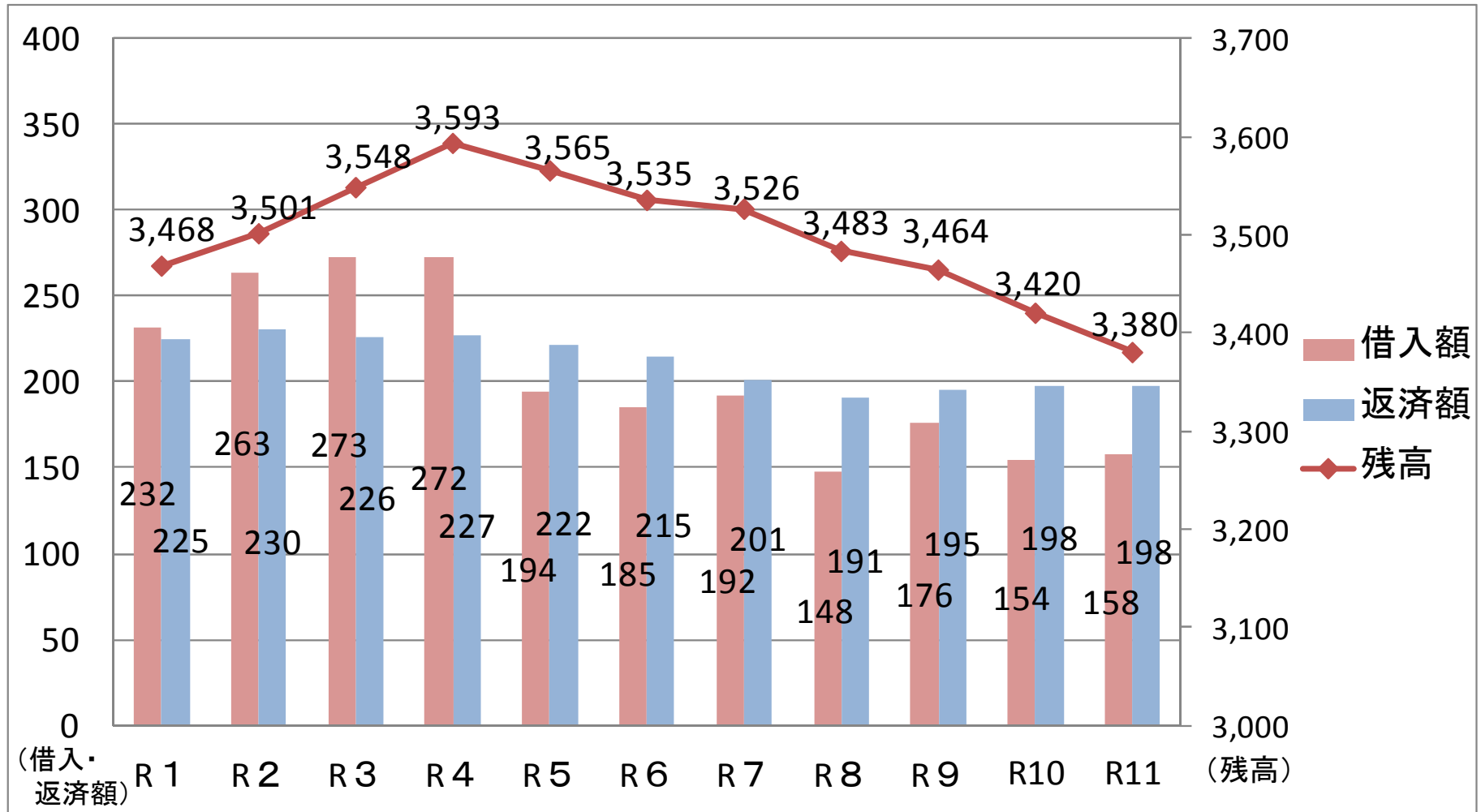
(単位:百万円)



投資・財政計画(収支計画)

企業債残高

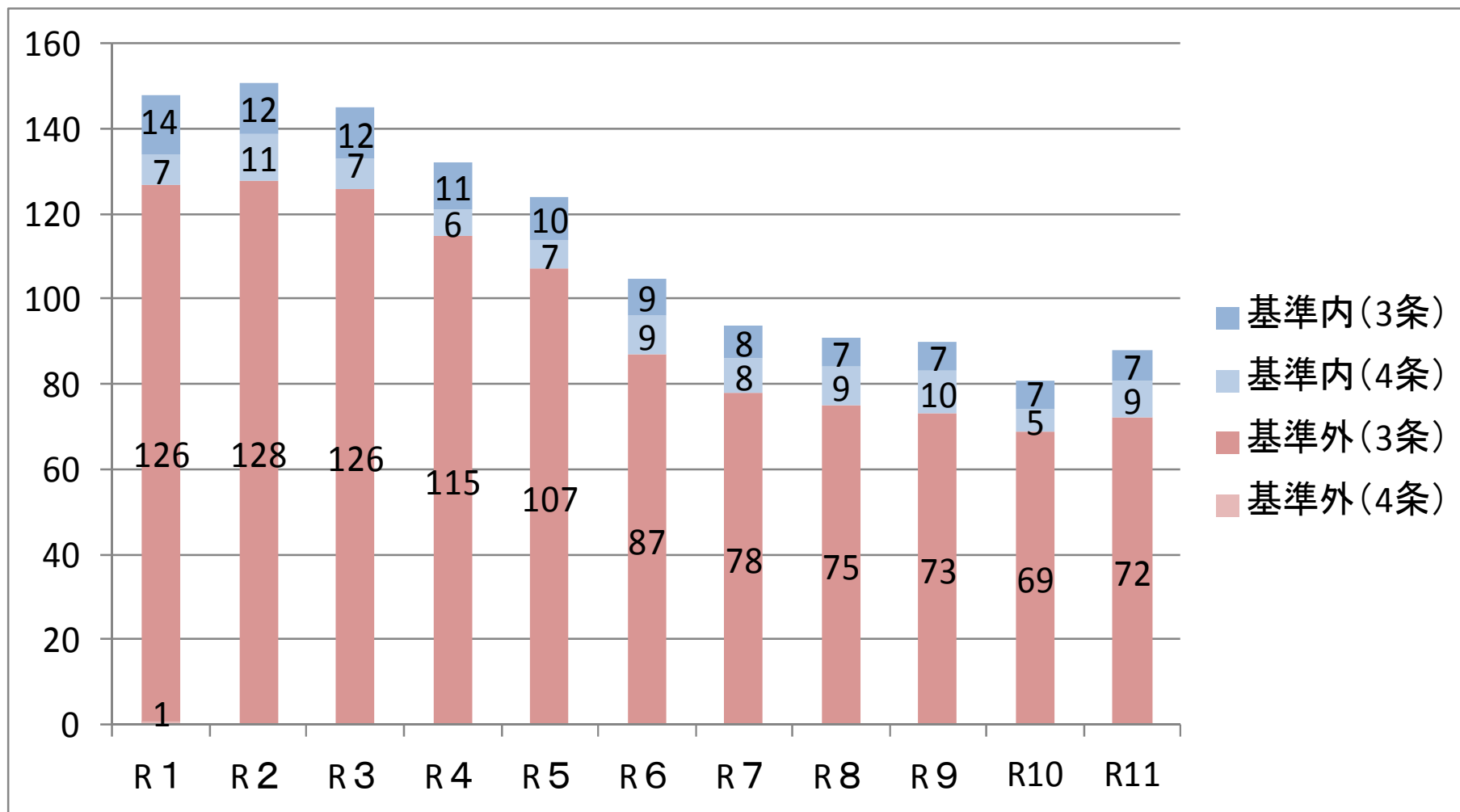
(単位:百万円)



投資・財政計画(収支計画)

一般会計繰入金

(単位: 百万円)



投資・財政計画(収支計画)

(2) 投資・財政計画(収支計画に当っての説明)

① 収支計画のうち投資についての説明

【目標】

- 水源の水質事故件数ゼロを掲げ、安全な水道水供給のため要クリプトスポリジウム(塩素消毒に耐性のある寄生原虫)等の対策を講じる。
- 有収率を水道ビジョン目標値である87.2%に引き上げる。
(令和元年度末有収率77.1%)
- 管路の耐震化率を水道ビジョン目標値である25.0%に引き上げる。
(令和元年度末管路耐震化率14.8%)
- 浄水施設の耐震化率を水道ビジョン目標値である28.4%に引き上げる。
(令和元年度末浄水施設耐震化率28.1%)

投資・財政計画(収支計画)

② 収支計画のうち**財源**についての説明

【目標】

- 事業費の抑制と財源確保に努めることで、営業収支比率を給水人口規模同等団体平均の95.7%に引上げ、最終的には100%を目標とする。
(令和元年度末営業収支比率88.1%)

③ 収支計画のうち**投資以外の経費**についての説明

- 迅速に対応出来る維持管理体制を構築し、維持管理業務に係る委託業務の効率化と技術力の確保を図る。
- 施設の老朽度を見極めながら必要な保守と修繕を実施することで、施設の長寿命化と経費の抑制を図る。

経営戦略の事後検証、更新等に関する事項

経営戦略策定後については、経営戦略の履行状況等を確認するため、フォローアップを行い、5年を目途に見直しを行う。

- ・経営戦略における計画と毎年度の決算額とを確認する。
- ・必要に応じて投資経費の見直しを行いながら、経営改善に努める。
- ・5年を目途に経営戦略（計画）の見直しを行う。